

千代田区の大学間で学び合う防災

1. 帰宅困難者支援施設運営ゲームを用いた図上訓練

30年以内に、マグニチュード7クラスの首都直下型地震が70%の確率で発生するといわれています。そこで、そのための取組として、首都直下型地震やゲリラ豪雨などの予測困難な大規模自然災害への防災・減災のための取り組みが注目されています。そのため、千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム（千代田区キャンパスコンソ）の5大学・2短期大学を含む区内の大学は、千代田区と『大規模災害時における協力体制に関する基本協定』を締結しています。各大学では、区民や一般の帰宅困難者の受け入れ、及び情報・食糧・飲料水などの提供などの使命を少なからず担うことが期待されています。

そこで、千代田区キャンパスコンソの共同研究として、令和3年度から「千代田学」共同提案事業「自然災害発生時における大学を拠点とした帰宅困難者支援に関する研究（研究代表者 酒井治子）」を開始しています。令和4年度も「（2）教職員及び学生を対象とした帰宅困難者支援施設運営ゲームの開発」を進めています。本学では千代田区三番町の体育館を避難所としているため「東京家政学院版 帰宅困難者支援施設運営ゲーム」作成しています。

令和5年1月7日(土)、千代田三番町キャンパスにて帰宅困難者支援施設運営体験ゲームのワークショップを開催し、人間栄養学科の学生16名と二松学舎大学の学生2名、教職員13名が参加しました。発災時において、帰宅困難者支援施設の開設に伴って、どのような安全・衛生管理、感染症対策、備蓄品、通信手段などの確保、情報提供体制など、施設運営に関する情報共有が必要であるのか、臨場感を伴った体験ができました。

「備蓄品はどこに収納されているのか」「どのような体制を作っていくべきか」「本学だけでなく、他の大学や地域のどのような場と連携することが必要なのか」等、学生や教職員の視点と、さらには、千代田区に勤務する帰宅困難者の視点の両面で、その対策の必要性を体験できました。

こうした防災・減災教育の場を地域の大学と連携しながら、学生ボランティアの人材育成につなげていきたいと思います。



学生チーム



教職員チーム

2. 人間栄養学科4年生による研究発表「自然災害に備えた備蓄に関する研究」

千代田三番町キャンパスにて、実践栄養プロデュース実習の一環として取り組んだ「自然災害に備えた備蓄に関する研究」について研究発表が行われました。①帰宅困難になった際の帰宅の判断基準、②必要な備蓄品の量や種類、③東京家政学院大学にどのような避難施設、備蓄品があるか、④災害時に備えて日常的に持っておくと良いか等が発表されました。



1. 帰宅する判断基準については以下の6つである。①歩ける距離か、②履物はスニーカーなど長距離歩けるものか、③自宅まで歩ける自信があるか、④帰宅ルートが分かるか、途中の道の安全は確認できているか、同じ方向の帰宅者はいるか、⑤明るい時間の内に帰宅できるか、⑥水やチョコレート、飴などの携帯食などを持っているかを確認する。
2. 過去の災害では、支援物資が3日以上到着しないことがあったため、農林水産省では、1人あたり最低3日分の食料の備蓄を推奨していた。
3. 本学の帰宅困難者の受け入れ対象は原則女性及び子供としている。そのため、生理用品や粉ミルク等の特徴的な備蓄品が備えられている。備蓄品には大学が管理しているものと、千代田区が選定し、大学が保存している備蓄品の2種類がある。大学での備蓄品は1号館の地下と2号館の4階にあり、水、食べ物から簡易トイレ、ウェットティッシュ、生理用品に加えて、アレルギーに対応した食品も備蓄されているが、それらの量は本学の学生数を満たしているわけではない。千代田区が管理している備蓄品には飲料水、毛布、アレルギー対応クッキー、フリーズドライご飯等があり、粉ミルクが備蓄されていることが特徴である。避難所については体育館地下1階のピロティで、収容可能人数は218人。体育館地下1階の小アリーナで、収容可能人数は210人。以上の2か所が千代田区に登録している避難場所で、合計収容可能人数は428人である。
4. 3のような備蓄がされているものの、災害時に備えて個人でも携帯しておくことが必要である。他大学では災害時携帯マニュアルがあり、日常的に持っておいた方が良いものとして、現金、健康保険証、モバイルバッテリー、衛生用品、ビニール袋、ホイッスル、家族や知人の連絡先、簡易食料、帰宅用地図などが挙げられていた。
5. より簡易的で軽量の携帯ボトルを提言する。ボトルを学校のロッカーに置いておくことで、区や大学で備蓄されていない自分自身が必要なものも備蓄が可能となる。

日常的に持っておいた方が良いもの紹介

☐ 現金（小銭も） 	☐ 健康保険証 	☐ 身分証明書（学生証・免許証） 	☐ モバイルバッテリー 	☐ ばんそうこう、包帯、コンタクトレンズ、マスク、生理用品
☐ ティッシュ、ウェットティッシュ 	☐ 季節に応じた冷暖準備（タオル、雨カッパ、携帯カイロなど） 	☐ ビニール袋 	☐ 油性マジックペン 	☐ ホイッスル
☐ 家族や知人、関係機関の連絡先（紙） 	☐ 懐中電灯 	☐ 簡易食料（チョコ、あめ、キャラメル） 	☐ 帰宅用地図 	

「災害用携帯ボトルの内容」

プロジェクト概要

●テーマ

千代田区の大学間で学び合う防災

●パートナー

千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム（千代田区キャンパスコンソ）

●担当教員

人間栄養学部 人間栄養学科
教授 酒井 治子

●実施期間

令和4年4月～令和5年3月